

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ(そよかぜユニット)		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成30年1月23日	評価結果市町村受理日	平成30年4月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7
訪問調査日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんにも「木かげで良かった」と感じて頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念「笑う門には福来る」を職員間で共有し実践中である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ボランティアや、中学生の職場体験を通じて地域社会と交流している。回覧板の受け渡しを通じ交流を図っている。		
3	(3)	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一度発行の木かげ新聞を農協さんなどに貼らせていただき、写真から見える入居者さんのご様子を見て頂き、認知症を知って頂だけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議時、参加者全員より感想や意見を頂き、サービス向上に結び付けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に管理者がおこなっている。スタッフ不足に関しても報告や相談にのって頂いている。愚痴を聞いて頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会はあまり行っていないが、日常のシーンの中で、禁止事項に触れ話し合ったり、「こう言う場合は抑制になりそうだね」などと話し合っている。玄関の施錠は時間(20時～翌朝7時半まで)を決め行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修には行っていないが、虐待などに関することはスタッフ間で共有し、防止に努めている。		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性に応じて個々に学んでいる。職員がそれらの制度を活用する機会はあまり無い。ご家族から相談を受けた際には、管理者が情報の提供をしている。行政から送られてくる冊子などをご家族にお送りしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に管理者が行っている。入居前に説明を行い、同意して頂いてから契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年に一回のケース会議にて、ご本人や、ご家族様からご要望や、ご意見を取り入れている。苦情やご意見などを木かけ内だけではなく、外部へも相談して頂けるよう契約時に文書にてご家族に提供している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務において必要な物品や修理など、現場の職員から管理者へ、管理者から代表者へ意見を伝え、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が行っている。管理者から代表に伝えて実績や勤務状況に応じて対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量などは、管理者から代表者へ伝える形である。代表者はそれに基づき、環境・条件の整備をしている。管理者が把握し、その都度都度で教育をしたり外部の研修に参加する機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	最近はまだあまり出来ていないが、同業者の集り等に参加できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	意思をはっきり示される方は、ご本人にお伺いをしている。意思を示すのが苦手な方には、ご家族に伺ったりご本人の思いを察する様つとめている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご入居相談から始まり契約時などに、ご要望を伺っている。契約書類一式の中に「ご要望等」を記入して頂く書類があり、色々詳しく記入して頂いている。ご要望については「出来る事と出来ない事」をきちんと伝えさせて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人からも伺うが、ご家族や今まで利用していた事業所などから、出来るだけ多くの情報を頂き、その時必要な支援に結び付けるようにしている。他の介護サービスの利用は自費になってしまう為、利用は出来ていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者さんの出来ることは、ご本人にして頂いている。時には、スタッフの相談にものって頂いている。自分自身と何ら変わらない、先人との付き合いを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者さん一人一人に各担当を設け、日々の状況を手紙にて報告したり、体調不良時にはお電話もさせて頂いたり、色々な事をまめにご報告させて頂き、信頼関係を築けるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話の取り次ぎ(こちら側からもお電話をかけて頂く)や、手紙の交換、来訪など今までと何ら変わりが無いように、お友達やご家族などの付き合いを支えさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事時や娯楽(自由)の時間などに、個々の性格や行動力などを理解し同席や組み合わせをし、良好な関係が保てるように支援している。一人の寂しい時間を作らないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	木かげの契約終了は死亡退去の為、時折、メールなどをさせて頂き、ご家族と故人の思い出話や、木かげの現状などをお伝えしながら、近くにお越しの際は、気軽に寄って頂けるようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話し下さる方にはご本人に伺い、表現することが難しい方は、表情から読み取ったりご家族に伺ったりしながら、ご本人の意向に添えるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居の際、ご家族から頂く情報(生活歴・病歴・暮らし方など)を参考にさせて頂いたり、ご本人に伺ったり、ご家族がいらっしゃったりした際に情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子をケース記録に記載し、入居者さん一人一人の状況が把握でき、適切な支援に結び付くように、スタッフ間での共有に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者さんご本人のご要望・ご家族さんのご要望を伺い、ご家族(ご本人の参加今はない)・スタッフ間にて話し合い介護計画書の作成をしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録への記入(大事なことや伝えたいことは赤字で記入している)や、必要に応じて話し合いの場を設けたり、職員間の情報共有、見直しの機会を作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	問題に関しては、その都度その都度ご家族に報告・相談をし、スタッフ間で共有・話し合い、問題の解決に近づけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員さんや社協の方などから、グループホームで利用できる、地域支援について教えて頂いたりしているが、なかなか思うように利用は出来ていない。ボランティアさんには、定期的に来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である武村内科医院へは月に一度定期受診に行っている。受診の際はご家族からのご要望(内服薬の見直しや変更など)を伺い、主治医に伝えるようにしている。主治医もご本人やスタッフの意見をよく聞いて下さる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ間の情報共有を強く心掛けている。職場内に看護職が居ないが、終末期には訪問看護に協力をして頂いている。スタッフ間の共有情報を細かく伝えられるように、連絡用紙を作成し利用している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、環境の変化が出来るだけ負担にならないように、詳細記入の医療連携シートを送らせていただいている。退院に関してはご家族さんの意向が主だが、なるべく早く退院して頂けるようにしている。ご家族と医師との話し合いに、管理者も参加させていただき医師にご要望を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人との話し合いは、なかなか出来ていないが、ご入居の際に、ターミナルケア・看取りについてお話をさせて頂いている。時期が近づいたころに、ご家族と話し合いをし、主治医受診を共にし、主治医の協力の下方向性を決めていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時などの対応については、管理者や新人指導担当スタッフから教えるようにしている。応急手当などについては、各スタッフ個々に学んでいるが、皆がきちんとできるわけではない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の訓練を行っている。そのうち一回は地域の消防署立ち合いの下、消防訓練をおこなっている。身につけているかどうかは不安が残る現状である。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合った話し方をさせて頂いているが、顔色を見ながら適宜話し方を変えてみたり、スタッフ間にて注意しあっている。空の状態のお部屋でもご本人に入室許可を頂き、必ずノックをし入室させて頂けるようにしている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に選んで頂ける様、選択肢を作り選んで頂いている。選ぶことが難しい方には、こちらで察する様にしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意志を尊重し、嫌な事苦手な事は無理強いせず行ってはいるが、現時点ではなかなか希望通りにはいっていない。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣の際、選べる方にはご本人に衣類を選んで頂いている。選べない方にはこちらで決めさせて頂いてしまっている。男性には髭剃りを女性にはお化粧(外出時など)やマニキュアなどを楽しんで頂いている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りは、専門調理師がしているが、盛り付けはスタッフと一緒にして頂いている。片付けに関しては下膳できる方にはして頂き、一緒に食器洗い・食器拭きをして頂いている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方のレベルに合わせた食事形態での提供をしている。チェック表を活用し、食事量や水分量の状態把握に努め、個々に合わせた補助食品などで補っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方には、声掛けやセッティングなどの工夫をし、食後の口腔ケアを徹底している。ご自分で出来ない方には、スタッフが吸引歯ブラシなどで口腔ケアをさせて頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	体力的に無理でない方は、トイレ(ポータブルトイレも利用)に座って頂いている。排泄チェック表にて一人一人の状態に合わせ、トイレ誘導などの個別支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を取って頂いたり、体操やお散歩などの運動をして頂いたり、トイレに座られた際の腹部マッサージを行っている。下肢の冷えに注意をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフ不足の為、最近では、なかなかご本人希望を重視できない日が多くなってきているが、なるべく希望に沿うように考えている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないように、日中はなるべく起きていて頂けるように、アクティブに過ごせるような環境を心掛けているが、休みたい時には、時間を決めさせていただき、お部屋やソファで休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を基にスタッフ同士で確認し合っているが、なかなか把握できていない派遣スタッフなどが多い為、なかなか難しい現状である。		
0		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケや、花札、トランプ、散歩等、ご本人が周りの方と楽しめる事を職員がセッティング・参加し共に楽しめるようにしている。参加できない方には、皆さんの楽しんでる様子を近くで見せて頂き楽しめるような支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望を、日々の何気ない会話の中から見つけ出したり、直接伺ったりして支援に結び付けている。その際、ご家族に同行して頂いたりもしている。最近では感染症が怖く、なかなか外出できていない。		

【評価機関】



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人がお金を持つことの大切さは理解できているが、現状は、なかなか持っていていただくことは出来ない。外出時には、自由に使えるようにさり気なくお渡しし支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使って頂けるようにしているが、かけ間違いをしないようにスタッフが見守りをしたり、ダイヤルさせて頂いている。お手紙のやり取りは、年賀状など季節のお手紙にはなってしまうが「〇〇さんにお返事を書きませんか」とおすすめている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	耳の遠い方が多い為、音や声が大きくなってしまふことが多いが、なるべく不快にならないように努めている。壁などに写真や、皆さんの季節の作品を貼らせていただき、楽しめる空間づくりをしている。落ち着く空間にはなっていない。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関わきの事務室に遊びに来て頂いたり、リビングや居室にて自由に過ごして頂けるようにしている。なるべくご本人の望まれる様過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、ご家族の写真や馴染みの物を飾って頂き、なるべく居心地の良い空間になるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	色々なお手伝いをして頂けるように使い勝手がいいように考えて出来るよう努めているが、その日その日のスタッフのレベル・考え方によっては、安全でやり易い工夫が出来ていないことも有る。		